

アサリの資源増大に関する取組について

1 概要

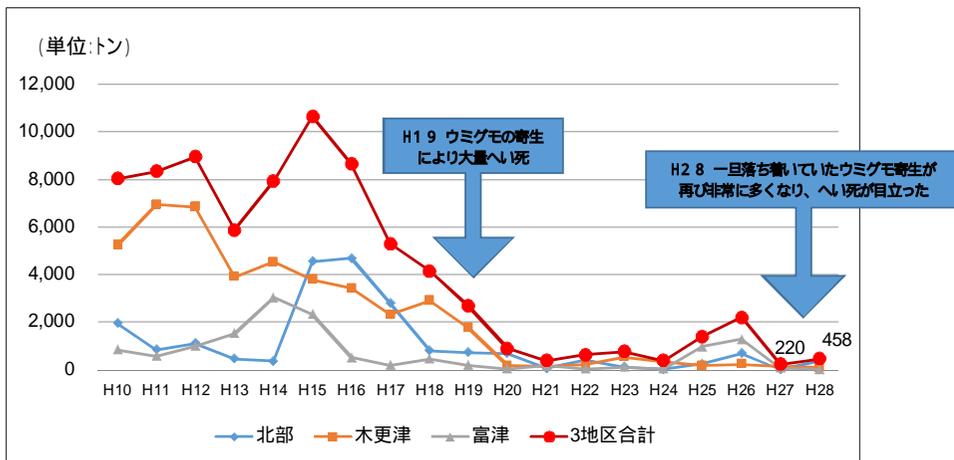
アサリは、東京湾の漁業や観光にとって非常に大切な資源ですが、全国的なアサリ資源の減少による放流種苗の不足や、アサリに寄生するカイヤドリウミグモの発生、青潮や秋冬季の波浪による影響により、現在、千葉県のアサリ資源は最低水準にあります。

アサリ資源を回復するには、東京湾で発生した稚貝を効率的に集め、夏のカイヤドリウミグモや秋冬の波浪から守り、親貝を増やし、資源回復に必要な産卵量を確保する正の循環を作り上げる必要があります。

そのため、県では、天然稚貝を活用したアサリ放流種苗の確保技術の開発や、効果的な駆除に向けたウミグモの発生情報の充実と速やかな提供を行うとともに、発生が多い漁場からの種苗の移植放流や、ウミグモの駆除、竹柵の設置等による波浪からの保護対策などの漁業者活動を支援いたします。

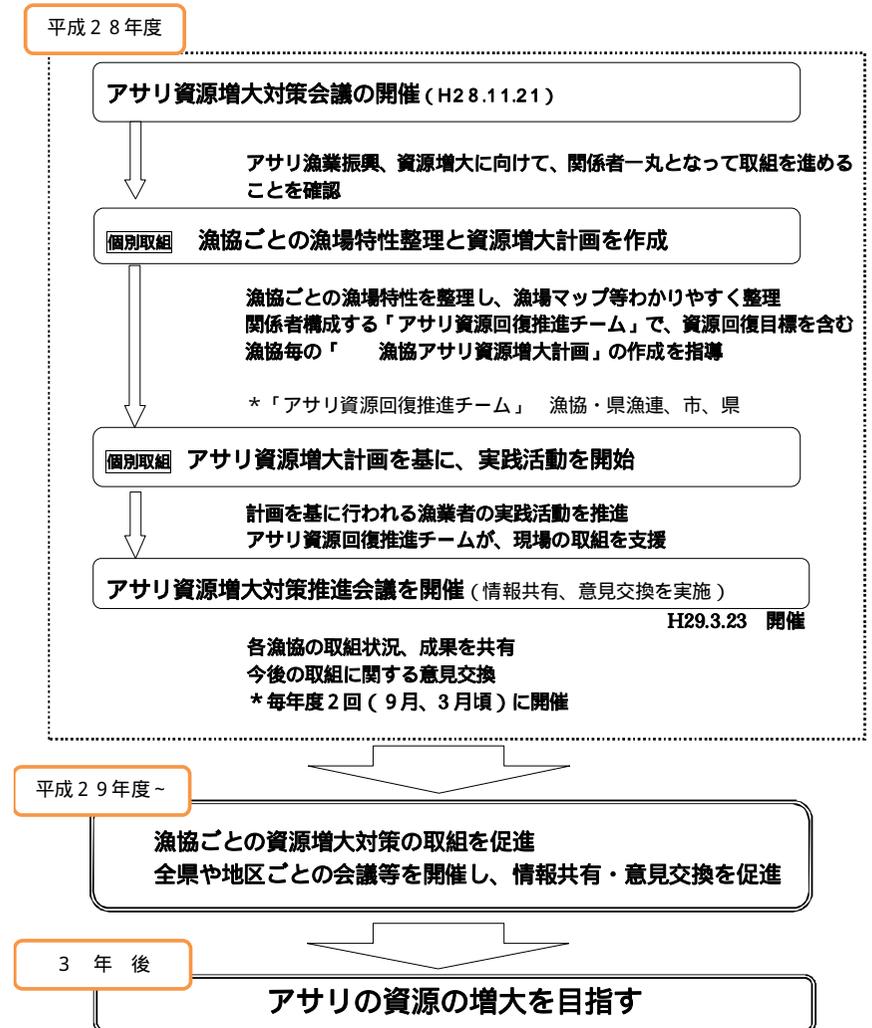
また、漁業者活動の成果等の情報を共有し、関係者が効果的な対策を検討する会議を行うことなどにより、漁業者、地元市とともに、アサリ資源の増大に取り組みます。

*参考：アサリ水揚量の推移



2 アサリ資源増大推進体制について

平成28年11月に開催したアサリ資源増大対策会議での協議をもとに、次のように資源増大対策を推進しています。



アサリの資源増大への取組

天然稚貝

稚貝対策：主に盤州・富津

成貝対策：三番瀬・盤州・富津 共通

天然稚貝の確保・保護技術の開発

稚貝採取

・人工芝

秋冬期減耗対策

・垂下カゴ
・網袋

天然種苗の確保

他県産種貝

自浦産種貝
金田産種貝

三番瀬産種貝
(夏秋季採取群)

入手困難
✗

不足
△

放流種苗の確保

・三番瀬漁場の有効活用
・盤州・富津漁場への種苗供給

秋冬期減耗対策

・ストックヤード
・網袋

アサリの資源回復が正の循環へ

産卵

成貝
35mm以上

夏

秋

冬

春

夏

秋

冬

春

夏生まれ

産卵
6~8月

夏生まれ
5-10mm



秋生まれ
20mm

秋生まれ

産卵
9~11月

夏生まれ
15mm



秋生まれ
23mm

夏生まれ
20-27mm



秋生まれ
30mm

波浪による
資源減少

盤州：ウミグモ
寄生
三番瀬：青潮被害

波浪による
資源減少

・地盤改良（耕うん・覆砂）
・死殻の除去
・沈着促進（竹柵設置）
・密度調整（漁場内移植）

・ウミグモ成体駆除
・食害生物（ツタガイ等）の除去
・迷惑生物（アサリ等）の除去
・青潮対策（覆砂）

保護区設定（竹柵設置）による
・波浪減耗防止
・鳥類の食害防止

水産多面的機能発揮対策事業（漁業者活動の支援）

漁場環境の改善・外敵生物の除去

干潟中間育成技術開発
・被覆網

干潟中間育成

人工種苗
10-15mm

保護育成
・網袋
・被覆網

施設中間育成技術開発
・陸上水槽（アップウエリク）
・いかだ式（FLUPSY）
・大規模餌料培養

施設中間育成

室内ふ化育成

親貝

人工種苗生産（自家生産）

✗
~H17 技術開発
生産コスト 高
現在休止中

養殖

養殖施設
・施設（筏、延縄）
・養成容器（カゴ、網袋）
・稚貝飼育（砂、砂利、軽石など）

養殖管理
・飼育密度
・養殖期間
・場所
・付着物の除去

出荷管理

養殖

人工種苗